

令和6年 春季火災予防広報誌

まとい



令和6年3月1日

第233号

編集 桑名市消防本部予防課
発行 桑名防火協会
桑名危険物安全協会
桑名市大字江場7番地
☎(FAX) 0594-24-0135

URL <http://www.kuwabou.info>



企業防火講習会の様子
(株)デンソー大安製作所にて

3月1日(金)～3月7日(木)

春の火災予防運動がはじまります

令和6年3月1日から3月7日まで「令和6年春季全国火災予防運動」が展開されます。火災が発生しやすい時季を迎えるに当たり、火災予防思想の一層の普及を図ることで、火災の発生を防止し、高齢者を中心とする死者の発生を減少させるとともに、財産の損失を防ぐことを目的に毎年実施されています。みなさんも、今一度、ご家庭の防火対策を確認したり、住宅用火災警報器の作動確認などを行いましょう。

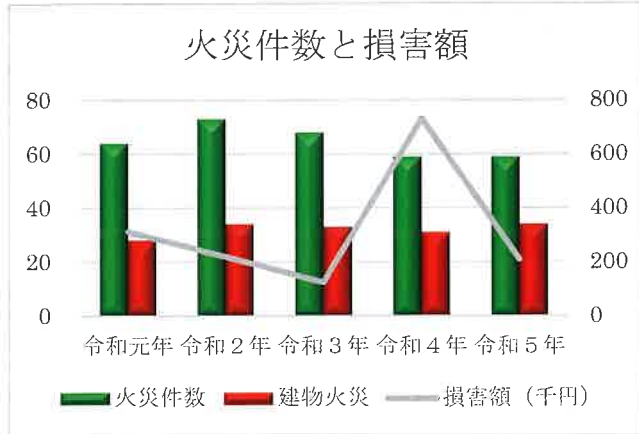
令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された方々、そのご家族及び関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

また、被災者の救済と被災地の復興支援のため尽力されている関係機関の方々に深く敬意を表します。

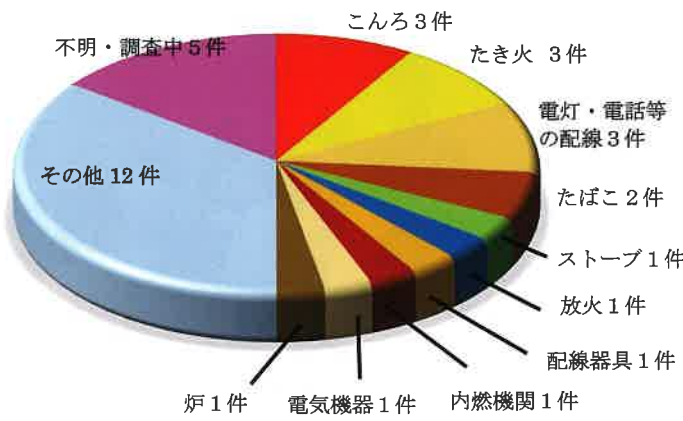
火災概況

令和5年中の火災概要

昨年中の桑名市消防本部管内（桑名市、いなべ市、木曾岬町、東員町）の火災件数は59件でした。火災種別での内訳は、建物火災が34件、林野火災が4件、車両火災が5件、その他火災（主に枯草などが燃えた火災）が16件となり、令和4年に比べると、建物火災が4件増加し、その他火災が5件減少しています。損害額については、令和4年に比べ大幅に減少し、過去5年間の平均と比べても減少しています。



建物火災の主な出火原因



建物火災の主な出火原因

建物火災は34件発生し、全体の約57%を占めています。出火原因として件数の多い順に、「こんろ」、「たき火」、「電灯・電話等の配線」が3件、続いて「たばこ」2件、「ストーブ」、「放火」1件などが主な原因となっています。

火災による死傷者については、死者6人、負傷者7人でした。死者6人については、すべて住宅火災によるものです。住宅火災による死者6人のうち、65歳以上の高齢者は4人でした。全国でも、住宅火災による死者の7割以上が高齢者となっています。

カセットコンロの使い方

にご注意を!!

まだまだ鍋料理がおいしい季節ですね。そんな時に活躍するのがカセットコンロ。コンロに使用するカセットボンベには可燃性のガスが入っていますので、正しく扱わないと破裂して引火するおそれがあります。令和4年12月に兵庫県伊丹市の飲食店で、鉄板でお好み焼を焼いて食べた後、店側が鉄板の上に設置したカセットコンロ上で、焼肉を食べていた女性客の目の前に置いてあったカセットコンロが突然爆発し、女性客が搬送先の病院で亡くなりました。鉄板の熱が残っており、カセットコンロのボンベが熱せられ爆発した可能性があるということです。

- 日本ガス石油危機協会とN-TEEは、カセットコンロが爆発するケースについて次のような状態をあげています。
- カセットコンロを2台ならべ、その上に鉄板を置く。
（鉄板から出る放射熱でボンベが加熱される）
- カセットコンロを覆うような大きな鍋を置く。
（熱がこもりボンベが加熱される）
- IH調理器の上にカセットコンロを置く。
（IH調理器の電源を誤って入れてしまった場合、ボンベが加熱される）
- ガスコンロの上にカセットコンロを置く。

グリルを使用した場合、グリルからの排気熱でボンベが加熱される。この他、暖房器具の近くにボンベを置いたり、ガスコンロとの接続がうまくいってなかったりした場合も爆発の危険性があります。また、ボンベを使い残したまま廃棄した際も、ごみ収集車内で可燃性ガスが充満し、ごみ圧縮時に生じた火花等で引火する恐れがあります。その他安全に使う上で気を付ける点は以下になります。

- 調理以外の用途に使用しない。
- 石綿やセラミック付魚焼き器や焼き網、陶板プレートなどの蓄熱性のあるものは使用しない。
- ボンベを40度以上になる車内に置かない。
- コンロに指定されているボンベを使う。
- 家具や壁、カーテンなどの引火物や可燃物、熱を遮るような物から15cm以上は離す。



消防通信

能登半島地震被災地へ 緊急消防援助隊出動

はじめに、このたび令和6年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に、深く哀悼の意を捧げるとともに、ご遺族と被災された全ての皆さまに心からお見舞い申し上げます。

令和6年1月1日16時10分に最大震度7を観測し、石川県を中心に甚大な被害をもたらした令和6年能登半島地震において、桑名市消防本部は、緊急消防援助隊三重県大隊として1月10日に第1次隊が出動し、1月19日までの10日間、第3次隊まで延べ41名が被災地の石川県輪島市へ派遣され活動してきました。

第1次隊は、1月10日未明に4台14名で三重県大隊として、新名神高速土山サービスエリアを石川県輪島市に向けて出発しました。

石川県に入ると、至る所で道路が損壊しており、渋滞に阻まれ慎重に走行しながら、15時間かけて宿営場所であるコメリ輪島店に到着し、地震により亀裂や段差が生じている駐車場内にテントの設置や炊き出し等の準備で1日目が終了しました。

2日目からの活動は、安否不明者の捜索活動が主な任務となり、消火小隊は輪

島市河井町（輪島市朝市周辺）の大規模火災現場で、警察及び自衛隊と合同での捜索活動を実施し、救助小隊は安否不明者の住所特定と土砂崩れ現場での捜索を行いました。

河井町の火災現場は、焼失面積5万800平方メートル、約300棟が焼損した大規模な火災で、未だに10名以上の安否不明者がいる可能性があり、耐火造の建物は形が残っているものの、木造の建物は屋根や柱も残っておらず、基礎の上に焼け崩れた瓦やトタンが残っている状態の中での、捜索活動を行いました。



新名神高速土山サービスエリアでの出発式

輪島市の宿営地の様子

土砂崩れ現場における活動は、至る所で土砂崩れが発生しており、土砂が更に崩れて2次災害が発生するおそれがあるため、活動が継続できなかつたり、アクセスするための道路が、がけ崩れによって寸断されていたりと、様々な障害があ

り、安否不明者の発見、救出には至りませんでした。

今回の災害は、新しい年の平穏と多幸を願う元日に起きた地震で、災害は何の予告もなく、突然にやってきました。冬の避難所で避難を続ける被災者の方々への思いを馳せながら、地震に対する備えを今一度確認願います。

第1次隊 桑名市消防署
救助小隊長 佐竹 昭則

防火・防災管理講習が 外部委託になります!!

桑名市消防本部（桑名防火協会協力）が開催している、防火・防災管理講習会を令和6年度から、一般財団法人日本防火・防災協会へ外部委託することになりました。

これにより、申込方法や受講料などが以下のように変更となりますので、ご注意ください。

◎委託先（問い合わせ先）

一般財団法人

日本防火・防災協会 業務部

TEL 03-6263-9904

〒105-0021

東京都港区東新橋1丁目1-19

ヤクルト本社ビル14階

◎申込方法

一般財団法人日本防火・防災協会ホームページ内 防火・防災管理講習からお申込ください

講習種別	日時	募集期間	募集期間	受講料	募集人員	会場
甲種新規	令和6年5月30日(木) ・31日(金)	4月8日(月) ? 4月15日(月)	一般財団法人日本防火・防災協会のホームページでご確認ください	8,000円	甲乙で合計 100名	桑名市中央町三丁目79番地 1階多目的ホール
乙種	令和6年5月30日(木)			7,000円		
甲種新規	令和7年2月6日(木) ・7日(金) (予定)	12月3日(火) ?		8,000円	甲乙で合計 100名	
乙種	令和7年2月6日(木) (予定)	12月10日(火)		7,000円		
防火・防災 新規	令和7年2月13日(木) ・14日(金) (予定)	12月16日(月)~ 12月23日(月)		10,000円	100名	
防火・防災 再	令和7年2月21日(金) (予定)	1月7日(火)~ 1月14日(火)		7,500円	100名	

講習関係 TEL 03-6263-9904
FAX 03-6812-7140

講習案内は、日本防火・防災協会ホームページをご確認ください
https://www.bouka-bousai.jp/hp/lec_info/index.html

防火協会会員事業所紹介

扶桑工機株式会社

代表取締役社長 服部 岳



当社では、自動車部品を生産する専用設備（専用機）と金型の設計製作を行っております。当社の主顧客である自動車業界は過去に見ない変化の真ただ中であり、その変化も多様化・複雑化してきており、これまでとは比べ物にならない変化のスピードに適應していかねばならない厳しい状況となっております。

このような状況に対し、当社の強みである「高難度な設備・金型の供給」をコアとし、その周辺を拡充することで事業基盤の強化に取り組んでいます。

防火・防災活動については、事業場ごとに自衛消防隊組織と火災予防管理組織を設けて、定期的に訓練・防災設備点検を実施し、社員全員に防火管理教育（e-

Learning）を行っています。

当社も近い将来発生が想定される南海トラフ地震に備えて事業継続計画（BCP）を策定し、教育・訓練・災害時必要アイテムの充実化に取り組んでいます。また、昨年は毎年実施している防災訓練にBCP模範訓練を連携させて行いました。今後も桑名防火協会の一員として、防火・防災活動の向上と体制強化に努め、地域文化の発展・活性化に寄与し、地域と共に躍進する企業を目指してまいります。



東海コンクリート工業株式会社

代表取締役社長 石黒 幸文



東海コンクリート工業株式会社三重工場は、1969年にいなべ市大安町にて、建物の基礎を支えるコンクリートパイルの製造工場として設立されました。

その後、時代のニーズに合わせ、ビルの外壁となるカーテンウォールやマンホールなどの地中化製品や電力・通信・鉄道などのインフラを支えるコンクリートポール（電柱）など多岐にわたるコンクリート二次製品の製造拠点として、約150人の従業員及び協力会社の方が働いています。

コンクリートポール工場では、これまでの1本の長いポールから、短く2本に分割された分割柱（建柱現場で接合）の需要が増えたことから、効率よく製造するために、事業所内にコンクリートポール製造の新工場を建設し、昨年1月より稼働を開始しました。

新工場では、屋外消火栓や火災通報装置などの設備を適切に使用できるように自衛消防隊による訓練を行っています。

また、全従業員に支給したスマートフ



オンに安否確認システムを導入し、災害時を想定した緊急連絡訓練を行っており、社会インフラを支えるメーカーとしての

責任を自負した活動を行っています。昨年12月1日には、桑名市消防本部様にご来場いただき、「企業防火講習会」を実施しました。

出火防止対策や日常の防火管理についてのほか、スマートフォンを使用した映像通報システムについても実演を交えて説明いただくなど、従業員に対して防火管理知識の習得や防災意識の向上に繋がったものと考えております。

今後も引き続き防火協会の一員として、火災・事故の発生防止と防火・防災体制の強化に、工場一丸となって取り組んでまいります。



企業防火講習会の受講状況